

## 平成 23 年度 横浜市つたのは学園運営報告

平成 23 年度は、利用者数 25 名から始まり、60 歳を迎えた利用者が 5 月末退所され、24 名まで落ち込み、定員の 5 割を切る状態となりましたが、3 月末では 28 名までとなり、24 年 4 月は 30 名のスタートとなりました。新しい試みとして、日中一時支援事業、法人内他事業所との連携システム、年度後半よりの第 3 土曜日開所を行い、横浜市の協力、基盤整備事業の活用で、玄関、廊下、ホール、活動室等の改修工事を行い、敷地内通路も改修工事を行い、少しずつではありますが、過ごしやすい環境が整ってきて来ました。利用者 1 名の長期所在不明、職員の私生活における触法行為による懲戒解雇と問題が出ましたが、次年度は反省に立って運営したいと思います。

### 1. 重点目標について

- (1) 利用者数の増加を目指す(年度を通して少なくとも 3 名増を目指す)
- (2) 利用率の増加を目指す(前年度比少なくとも 3%増を目指す)  
相談は数回あったが、10 月まで増加にいたらず。法人内他事業所の協力、横浜市担当所管の協力もあり、利用者数、利用率とも年度末にようやく達成。ドア to ドア送迎の効果で、特に、水曜日の利用率は増加した。
- (3) 日中体制の見直し  
大きな見直しはできなかったが、空き缶リサイクル活動を試行することにより目的活動もとりいれ、次年度に向け、様々な活動を模索。
- (4) 地域ニーズの発掘と地域との連携強化  
施設ボランティアの方が、地域で支援を必要とする子どもの居場所づくりをはじめ、地区センターとの共催で、長津田探訪&クリーン作戦を地域の方と行い、地区センター利用者の方が、ボランティアのダンス講師になっていただいたりと、新しい動きが出てきている。
- (5) 新規事業の検討  
日中一時支援、短期入所連携システムの定着を目指し、主任支援員が法人内 GH 検討委員会に参加することで、地域生活に向けての課題を共有できるよう努めました。

### 2. 管理面について

- (1) 月次報告を回覧し、共有化することで、予算執行の明瞭化を図り、効果的執行を心がけたが、年度途中まで利用者数が増えず、単年度赤字となった。
- (2) 定期的に、特別支援学校、福祉保健センターを訪問することにより、実習者も、徐々にではあるが、増加し、年度後半の入所、新年度の新卒者の入園につながった。
- (3) 建物の改修工事としては、壁面の美化、手すり取り付け工事、ドア、網戸、排煙窓等の改修、玄関下駄箱の改修、ホールの改修及び畳スペース設置等を基盤整備事業、障害支援課事業として行った。
- (4) 平成 22 年度に粗大ごみ回収を委託した業者が、無許可営業で横浜市の行政処分を受けたということで、24 年 1 月に資源循環局の立入調査を受けた。その際、今後産業廃棄物を処分する際は、収集運搬業者・処分業者の各々と委託契約書を締結し、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を使用するよう指導を受けた。今後注意したい。
- (5) 長津田地区センターの新しい指定管理者と密に連携をとり、協力関係が構築できた。
- (6) 新しい給食業者とも給食委員会を通し連携をとり、混乱なく、給食サービスが行えた。
- (7) 職員退職に伴い、職員募集を行ったが、支援員はパート職員の実習を行ったが、適任者は見つからなかった。

- (8) 送迎については、通園バスの定時運行のほか週1回のドア to ドア送迎を行い、次年度の週2回に向けて検討を行った。
- (9) 節電では、横浜市として積極的に取り組み、地区センターの協力で、使用電力前年度比-22.0%、料金-18.5%(月平均84123円)であった。

### 3. 支援面について

- (1) ケアマネジメント手法により個々の個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせた適切な支援を提供するように努めた。  
平成23年度においても、アセスメントとして3月中までに事前調査票の配布とそれに沿った家庭訪問を中心とした聞き取りを行い、それをもとに個別支援計画を作成した。その個別支援計画については、5月中までには本人もしくは家族の了解をいただいた。また、10月末をもってモニタリングを行い、支援の状況の見直しを行った。
- (2) カンファレンス等への参加を積極的におこなった。また、主に当法人内の施設の短期入所連携システム利用の希望をのべられた利用者については、空き状況の確認、利用調整、導入時の見学の付添い、短期入所時の支援などを行った。
- (3) 内臓疾患受診中断の利用者に対し、嘱託医の協力もあり、受診することができ、その後も不安に対するアドバイスをいただいている。
- (4) 中山機器センターのPTの協力で身体障害の方の支援についてアドバイスをいただけた。
- (5) 通園(退園)途上での問題がある利用者については、母子家庭で、母親もまいっており、3ヶ月の入院、短期入所等を行ったが、根本的な解決策が見いだせず。
- (6) 支援員の言葉使いに利用者本人より苦情あり。区ワーカーに入っていただき解決を目指した。その後も、OPさんにも協力をいただいたが、11月4日より長期所在不明続く。障害支援課、区のワーカー等と協議を重ねた。
- (7) 年度後半より、第3土曜日をオープンサタデーとして開所し、全員での食事作りをメインに行い、毎月普段とは異なるカリキュラムを提供した

### 4. 家族会、家族について

- (1) 家族会において、施設が側面的に協力可能な事務処理や連絡などについては、協力した。
- (2) 新嘱託医の協力で、個別健康相談の充実が図れ、面談されたご家族に好評であった。
- (3) 家族会そのものが負担だという家族多し。今後あり方の検討を要す。

### 5. 地域についての報告

- (1) 10月15日(土)に地域交流事業として「つたのは祭り」を、長津田地区センターの「センターまつり」、長津田小学校の「ふれあいフェスティバル」と合同で開催した。当日は、あいにくの天候であったが、地域の方々を中心として多くの来場者があった。
- (2) 利用者の日中活動を安定させるため、相談受付、カンファレンス参加などを行った。ケースワーカーを中心に本人と家族を取り巻く関係者によるカンファレンス。特別支援学校等の父母の見学時に、障害者自立支援法における事業所利用手続きなど、一般的な説明も行った。
- (3) 地域の中学校との交流行事「あすなる会」は予定通り開催。福祉体験実習は地域中学校2校より7名の受け入れを行う。それぞれに「障害とは?」、「知的障害とはどんな状態か?」などの課題を提示し、学年に応じた考察をしてもらった。
- (4) 特別支援学校の実習は、3年生が3校6名、2年生が2校7名と地域の学校にも定着してきたと思われる。

(5) 特別避難場所として、備品等を充実した。

6. その他

- (1) 私生活で触法行為が発生し、無断欠勤が続いた職員については、懲戒規程に基づき、調査委員会、審査委員会にて審議。懲戒処分とした。
- (2) 広報紙「つたのは便り」を発行し、福祉保健センター、特別支援学校、地域ケアプラザ等に配布を行った。
- (3) 草笛ボランティアの方より今年度も年4回の寄付を受けた。
- (4) 偕恵GHの利用者を1年をかけて、偕恵シグナル職員の協力のもと、つたのは学園実習を行い、平成24年度移行に結び付けられた。

7. 諸状況について（平成24年3月31日現在）

(1) 入退所の状況

入所者	入所年月日	入所前所属	退所者	退所年月日	退所後所属
M.K	23年4月1日	特別支援学校	Y.N	24年3月31日	日中一時
N.K	23年4月1日	法人内他事業所	S.M	24年3月31日	他事業所
K.O	23年11月21日	他事業所			
K.H	24年1月18日	他事業所			
Y. T	24年2月2日	他事業所			
R.O	23年3月7日	他事業所			

(2) 援護実施機関について

居住地	緑区	瀬谷区	青葉区	旭区	神奈川区	港北区	保土ヶ谷区	町田市
男	7	4	1	3	1	1	1	0
女	7	1	1	0	0	0	0	1
計	14	5	2	3	1	1	1	1

(3) 年齢について

最年長者：64歳、最年少者：19歳

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	平均
男	0	4	5	6	2	1	39.9
女	1	2	4	2	1	0	34.4
計	1	6	9	8	4	1	37.9

(4) 障害程度区分について

区分	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
人数	0	3	8	8	9	28

(5) 愛の手帳の状況について

	A1(0～20)	A2(21～35)	B1(36～50)	B2(51～75)	合計
男	11	6	0	1	18
女	3	4	2	1	10
計	14	10	2	2	28

## (6) 身体障害の状況について

部位	視覚	聴覚	上肢	下肢	体幹	心臓
人数	0	0	7	8	2	0
等級	1	2	3	4	5	6
人数	3	3	0	0	0	0

## (7) 在所年数について

年数	1年未満	～2年	～3年	～5年	～10年	10年以上	合計
男	4		1			13	18
女	2	1		1	1	5	10

## (8) 出席状況(年間稼働日数 245 日)

月	4	5	6	7	8	9	
稼働日	21	19	22	20	20	20	
出席率	43.3	40.0	37.5	37.2	38.1	40.0	
月	10	11	12	1	2	3	計
稼働日	20	21	20	20	21	21	245
出席率	39.1	37.5	36.5	36.7	39.0	43.3	38.7

## (9) 主な研修・会議について

施設協会関係	県・市社協・その他	園内	
全国大会 1名	研修・講演会 27回 のべ31名	支援会議 18回	職員会議 12回
		業務運営会議 12回	給食会議 12回
			園内研修会 3回

## (10) 日中一時支援事業、及び短期入所連携システム

## 日中一時

月	4	5	6	7	8	9	
延人数			1	4	4	2	
延時間			4	19	30	14	
月	10	11	12	1	2	3	計
延人数	2	6	3	1	3	2	27
延時間	14	42	21	7	21	15	183

## 短期入所連携

月	4	5	6	7	8	9	
延人数		1	1	2			
延泊数		2	1	3			
月	10	11	12	1	2	3	計
延人数	2	2	1	1	1	2	13
延泊数	2	2	1	1	1	2	15